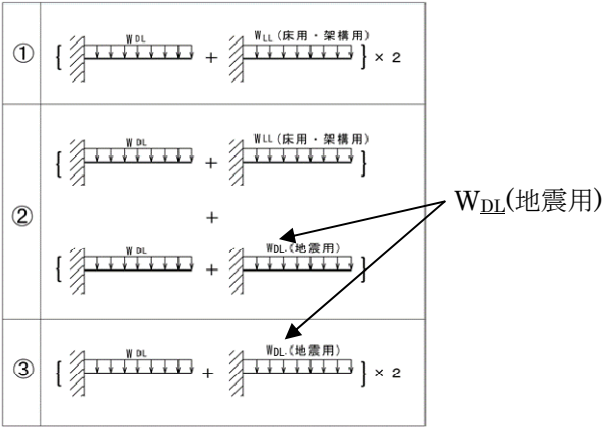
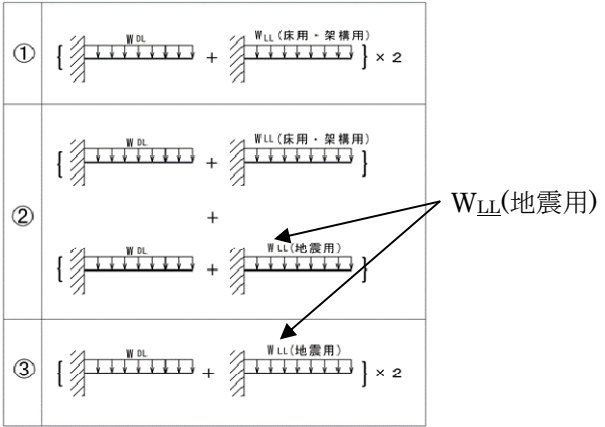


大阪府構造計算適合性判定 指摘事例集 —よくある指摘事例とその解説—(2016年版)

正誤表

(誤)	(正)
<p>2.2 鉛直震度による突出部分などの検討</p> 	<p>2.2 鉛直震度による突出部分などの検討</p> 
<p>3.1.1 RC 梁の曲げ剛性に及ぼすスラブの影響</p> <p>2.スラブが梁天端付きの場合</p> <p>いずれも略算値との差が大きいことから、<u>基礎梁など一般的な断面と異なる与える影響が少ないことから、特に精算値を採用する必要はない。</u></p>	<p>3.1.1 RC 梁の曲げ剛性に及ぼすスラブの影響</p> <p>2.スラブが梁天端付きの場合</p> <p>いずれも略算値との差が大きいことから、<u>一般的な断面と異なるものについては精算値を採用する必要がある。ただし、基礎梁は柱に対して断面が大きく、次ページの検討結果より、長方形断面での柱に対する基礎梁の剛比が5倍程度の場合には上部構造に与える影響が少ないことから、特に精算値を採用する必要はない。</u></p>
<p>3.1.4 柱の軸方向変形が応力解析に及ぼす影響</p> <p>2.上下階に連続しない柱を設ける場合</p> <p><u>柱の長期時応力に梁の変形が影響し、柱を剛体とした場合、柱に引張り応力が生じることがある。上下階に連続しない柱では長期の軸方向変形を考慮する。</u></p>	<p>3.1.4 柱の軸方向変形が応力解析に及ぼす影響</p> <p>2.上下階に連続しない柱を設ける場合</p> <p><u>上下階に連続しない柱では梁の剛性や床荷重の大小により、柱の長期時応力が異なってくる。このような柱では長期の軸方向変形を考慮する。</u></p>
<p>5.10 杭頭接合部の設計</p> <p>1.2 杭頭接合方式による杭頭固定度</p> <p>一方、図-1 の c)埋込み方式で</p>	<p>5.10 杭頭接合部の設計</p> <p>1.2 杭頭接合方式による杭頭固定度</p> <p>一方、図-1 の d)埋込み方式で</p>